令和７年度 第３回神戸 2030 ビジョン推進会議

－議事要旨－

日 時：令和８年３月４日（水）13:00～15:00
場 所：神戸市役所１号館 14 階 大会議室

＜出席者＞

氏　名	役　職
（会長）品田 裕	神戸大学大学院　法学研究科　教授
加藤　明	連合神戸地域協議会 議長
佳山　奈央	La vie est belle 株式会社 「おやこの世界をひろげるサードプレイス PORTO」代表
佐合　純	iC 株式会社 代表取締役
竹内　友章	関西福祉科学大学 社会福祉学部社会福祉学科 講師
中村　浩一郎	株式会社三井住友銀行 公務法人営業第二部　部長
中村　優子	P&G イノベーション合同会社 代表社員職務執行者 P&G R&D ヴァイスプレジデント 神戸研究所所長 ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ研究所長
平田　恭子	西日本旅客鉄道株式会社 理事 （近畿統括本部副本部長・兵庫支社長）
松下　麻理	Artist in Residence KOBE（AiRK） 一般社団法人 ハイム 代表理事
村川　勝	一般社団法人兵庫県中小企業家同友会 代表理事
山瀬　敬太郎	兵庫県立大学環境人間学部 教授

＜欠席者＞

石川　路子	甲南大学 経済学部経済学科 教授
稲垣　賢一	一般社団法人 兵庫県中小企業診断士協会 理事
中野　みゆき	特定非営利活動法人 Oneself 理事長

（敬称略）

１．開会

２．議事（１）パブリックコメント結果ついて

＜事務局＞

－資料２、３に基づき説明－

＜会長＞

・パブリックコメントについて、市民からの提案と、それを踏まえた修正案の説明をいただいた。賛同いただけているようであれば、この方針で進めたい。

３．議事（２）新たな総合基本計画の推進について

＜事務局＞

－資料４に基づき説明－

＜会長＞

・新たな総合基本計画の推進について、ご意見や感想があれば発言してほしい。

＜委員＞

・今後の取組でワークショップを進める方針は非常に良いと考える。弊社のような神戸に本社を置く企業の社内でも、こうした対話の場を設ければ、神戸に住む人だけでなく働く人の神戸への愛着が深まると考える。また、神戸を良くするために一人ひとりがアクションをとることができるのも意義深く、弊社としてもぜひ協力させていただきたい。

＜委員＞

・資料４にあるとおり「市民や関係者と計画を推進していく」ことが重要で、今後もこの取組を継続したい。KPI の達成に参画したいと考えている企業もあるはずだが、まずは市の取組を知ってもらうために、リーフレット等を使いながら、取引先の企業にも広めていきたい。我々が窓口になり、関心のある企業と市をつなぎ、KPI 達成に参画してもらえる企業が増えれば、さらに盛り上がっていくのではないか。

＜委員＞

・市外の学校ではあるが、神戸から通学している学生も多く、授業の一環として本取組のワークショップを取り入れたい。また、ワークショップを通じて神戸の良さを理解してもらうことで、市外出身の学生にとっても、将来的に神戸への移住を考えるきっかけになればと思う。

＜会長＞

・学生にとっても、授業は講義だけでなく話し合いをするという機会は意義がある。ぜひ市域を越えた連携を進めてほしい。

＜委員＞

・来年度から計画が始まるが、どう継続していくかが重要である。市役所主導の取組だけでなく、市民が自ら考え行動できる自走の仕組みを整える必要がある。

・役所内の異動で担当が替わっても、職員一人ひとりが「神戸 2030 ビジョン」の伝道師となり他部署にも広めることが重要である。職員の中に、この計画を常に意識し、守っていこうとする気持ちが残るような具体的な取り組みが行われることに期待している。

＜事務局＞
・今回、計画を簡素な表現に留めたのは、市民に分かりやすくということはもちろん、職員が自分の日々の業務が何のためにあるのかを常に意識しやすくするため。
・４月以降は、部局の垣根を越え、志ある職員がワークショップ等の活動に主体的に関わることができるように、庁内の副業制度を活用し、他部署の職員もファシリテーターとして参加できる仕組みを検討している。そうすることで活動の裾野を広げ、職員への浸透も図りたい。

＜会長＞
・そのような取組が進められていると聞き、安心した。町内会や地域団体の高齢化が進む中、市と地域をつなぐ仕組みが重要であり、地域の中で自発的に「自分たちに何ができるか」が話し合われるなど、自走するところまで進めば理想である。

＜委員＞
・計画は作ることよりも、その後の浸透や実行することの方がはるかに困難だ。行政からの一方的な説明では限界があるため、ワークショップという形式は非常に良い手段であると考える。
・説明を聞くだけでは参加者は関心を持ちにくいが、参加型であれば自分事化につながる。また、企業や団体向けの研修として活用できる形にすると広がりやすいのではないか。そのための案内用の資料などを作成いただきたい。

＜委員＞
・副業制度で意欲のある人が引っ張っていける仕組みはとても良いと考える。
・神戸市の目指す姿をカードのような形でわかりやすく表現するのはとても良い。
・一方で、企業でワークショップを提案しても、会社の CSR 活動と市の KPI の方向性を関連付けることにはとても共感するが、上司への説明や部下の巻き込みが難しいという声もある。市から直接説明いただくほか、あらかじめパッケージ化された提案メニューがあれば企業内部でも提案しやすくなると思う。

＜委員＞
・今後はどのように周知するかが重要だと考えている。神戸市の施策が市民にあまり伝わっていないため、利用されていないものも多い。若者や現役世代へスピーディに周知を図るため、SNS などを活用した広報の工夫が必要だと考える。

＜事務局＞
・全戸配布の広報紙で広く市民に知らせる等の「広い広報」と、ワークショップ等で自分事として深く理解を促す「深い広報」の両方が必要だと考えている。そのため、内容の深度に応じた紙媒体や動画を複数制作するとともに、サイネージや SNS を活用して若い世代にも届くよう、多様な情報発信を行っていきたい。

＜委員＞

・行政の計画を外に出て説明し、ワークショップで議論することは非常に重要である。ワークショップでは、パブリックコメントだけでは拾いきれない、日々の暮らしに直結した素朴な悩みや疑問といった、データには表れない市民の声を聞く貴重な機会になる。そうした声を計画の推進に生かせるよう、私も協力できることがあれば関わりたい。

＜委員＞

・神戸のまちづくりを実際に行っている方、例えば、現在進行中の三宮駅ビル建設などに携わる人々にも、神戸が目指す未来像や市民の思いを共有することは重要だと考えており、そのような広がりも検討出来たらと考えている。

・ワークショップや出前トークは８年度だけではなく、継続的に実施してほしい。また、KPI の見直しなども反映して、内容を常にブラッシュアップしながら開催することを期待している。

＜委員＞

・神戸に住み、働いていても、どこか市政との距離を感じている層は少なくないと感じている。企業を巻き込んだワークショップは、そうした人たちの参加を促す意味で重要と考える。

・小中学校での意見募集や授業への導入など、次世代を担う子どもへの取組も非常に大きな意味がある。将来神戸で住み続けたい、あるいは神戸に戻りたいと思う気持ちを育てることにつながるので、ぜひ学校でも継続して取り組んでほしい。

＜委員＞

・各所で行われるワークショップの知恵やアイデアを蓄積し、それを共有できれば活動に広がりが生まれる可能性があるかもしれない。

＜事務局＞

・子どもたちの参画については、計画策定の過程を通じて非常に意義のある取組であったと感じており、将来的な郷土愛の醸成にもつながると考えている。児童生徒が所持する GIGA 端末を活用した意見募集「はじめての市政参画」は、今後も教育委員会事務局と協議しながら継続する予定である。また、副読本「わたしたちの神戸」にも計画内容や策定経緯を掲載するとともに、教育委員会字医務局が用意する「KoLaBo」において、授業で活用できる題材としてプログラムも用意するなど、様々なアプローチで総合基本計画の周知を図っていきたい。

・また、それぞれの意見の共有については、まずは計画を周知することに重点を置いて取り組んでいきたいと考えており、次のステップの検討事項としたい。

＜会長＞

・本日出された貴重な意見について、今後事務局において検討・反映されることを期待する。本会議は継続して開催されるため、引き続きその場において、進捗や状況を踏まえた意見をお聞かせいただきたい。

４．閉会

＜事務局＞

・「神戸 2030 ビジョン」の方向性や KPI に加え、計画が施行された後の取組について、多くご意見をいただいた。来年度に向けては、総合基本計画の周知をどのように進めていくか、市民の皆さんに自分事として捉えていただくために、どのような工夫ができるかといった点が重要な課題であると考えている。ワークショップに限らず、より効果的な手法があれば積極的に取り入れながら、計画の目標が達成されたかを市民の皆さんと共有できる取組につなげていきたいと考えている。今後もご指導いただければ幸いである。